

國學院大學學術情報リポジトリ

〈シンポジウム記録〉 令和元年度共存学シンポジウム 「グローバル」世界のビジョンを探る：
「共存社会」の構築に向けて

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2024-10-31 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/0002001074

《シンポジウム記録》

令和元年度共存学シンポジウム

「[グローバル]世界のビジョンを探る―「共存社会」の構築に向けて―

本記録は、令和二年二月十八日（火）に開催された、令和元年度共存学シンポジウム「[グローバル]世界のビジョンを探る―「共存社会」の構築に向けて―」における報告・コメント・総合討議の内容を編集し、論旨を変えない範囲の加筆修正を行ったものである。國學院大學研究開発推進センター研究事業「伝統文化・神社・地域と共存社会の研究」の一環として開催された同シンポジウムは、「共存学」がこれまで蓄積してきた多様な学知を踏まえながら、これまでの総括と今後の展望を考えるべく、三名の報告者による発題をもとにグローバル世界における「共存社会の構築」を視野に入れた議論を行うことを目的として開催された。

グローバル化が進む現代社会において、画一化・均質化等が進むとともに、ローカルな場においては、それが変容し、多様化も進んでいくとの議論（グローバル化）がなされる現状において、シンポジウムにおいては、はじめに古沢広祐氏（國學院大學教授）から「グローバル」世界を共存の視点からどのように展望するかを目的に、これまで「共存学」において蓄積してきた学知を総括するとともに、今後の展望を考察する報告を頂いた。続いて、ヘイヴンズ・ノルマン氏（國學院大學教授）からは、欧米の事例を中心に、「文化多様性」をキーワードとして今後の世界に

おける「共存社会」の行方をテーマとする報告がなされ、茂木栄氏（國學院大学教授）からは、「森・里・海の共存」をテーマとして、被災地における祭礼や伝統芸能が持つ地域の力等を焦点として、今後の「共存社会」を考えることを目的とする報告を頂いた。

その後、コメンテーターとして、木村武史氏（筑波大学教授）、濱田陽氏（帝京大学教授）、パネリストとして、菅浩二氏（國學院大学教授）、菊田真司氏（國學院大学教授）、笠間直穂子氏（國學院大学准教授）が登壇し、松本久史氏（國學院大学教授）の司会による総合討議が実施され、活発な議論を行うことで、今後の「共存社会」を考えるための様々な課題や論点が提示された。その詳細については、本記録の内容をご確認頂きたい。

なお、本記録を掲載するにあたり、事務局にて編集した内容を登壇者の皆様、ご発言頂いた皆様にご確認頂き、加筆・修正等を頂いた。この場をお借りして、当日ご登壇頂いた皆様、そして会場にお越し頂いた参加者の皆様一人ひとりに、深く御礼申し上げます。

◇シンポジウム記録〈所属・肩書は開催当時。敬称略〉

令和元年度共存学シンポジウム「『グローバル』世界のビジョンを探る―『共存社会』の構築に向けて―」

主 催 國學院大學研究開発推進センター研究事業「伝統文化・神社・地域と共存社会の研究」

日 時 令和二年二月十八日（火） 十三時三十分～十七時三十分

場 所 國學院大學渋谷キャンパス 若木タワー地下一階 会議室〇二

【報告者】

・報告一 古沢広祐（國學院大學経済学部教授）

「『グローバル』へ向かう世界のゆくえ―共存社会と国連SDGs―」

・報告二 へイヴンズ・ノルマン（國學院大學神道文化学部教授）

「欧米における文化多様性の光と影」

・報告三 茂木 栄（國學院大學神道文化学部教授）

「森・里・海の共存から見える東日本大震災被災地の復興調査とこれからの展望」

【コメンテーター】

・木村武史（筑波大学教授）

・濱田 陽（帝京大学教授）

【パネリスト】

・菅 浩二（國學院大學神道文化学部教授）

・荏田真司（國學院大學法学部教授）

・笠間直穂子（國學院大學文学部准教授）

【司会】

・松本久史（國學院大學神道文化学部教授）

※本記録の編集作業は、宮本誉士（研究開発推進センター准教授）、半田竜介（同センター助教）、小山田江津子（同センター客員研究員）、伊藤新之輔（同センター研究補助員）、佐野和子（同センター臨時雇員）が担当した。